

## 但馬地域 掲載企業一覧

※企業名クリックで掲載ページにジャンプします。

企業名	所在地	企業概要
<a href="#">多田スミス</a>	朝来市	ガスコンロのバーナー部分などを製造し大手メーカーに供給
<a href="#">富士発條</a>	朝来市	エコカー用電池部品で、但馬から世界を視野に

知ってる?

# 但馬の魅力

兵庫県北部に位置する但馬は、豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町の3市2町で構成され、県全体の面積の約4分の1を占めています。北近畿豊岡自動車道などの整備が進み、京阪神から豊岡までは車で2時間30分ほどで行けるようになりました。

豊かな自然に囲まれ、スキー場、海水浴場のほか城崎温泉や湯村温泉をはじめ日本を代表する温泉も多く点在しています。"天空の城"として注目を集める竹田城跡、日本の近代化を牽引してきた生野鉱山、神子畑選鉱場跡、明延鉱山などの産業遺産をつなぐ「鉱石の道」など史跡にも恵まれています。また、2010年には山陰海岸ジオパークが世界ジオパークネットワークへの加盟を認められました。さらに、神戸ビーフの素牛である但馬牛、ズワイガニをはじめ豊かな食材を輩出する土地でもあります。

こうした豊富な観光資源により観光産業が盛んなほか、豊岡の鞆や竹田の家具など伝統的な地場産業があります。養父市は2014年5月、国から「中山間農業改革特区」に指定され、新たな農業の担い手が育ちつつあります。また、豊岡市ではコウノトリの野生復帰の取り組みを機に、コウノトリのえさとなる生き物が育つ「コウノトリ育む農法」によるお米などの生産が定着しています。

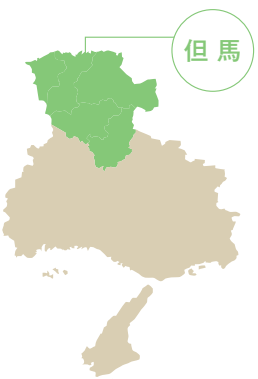
少子高齢化が急速に進んでいるエリアですが、他に類を見ない取り組みで地域の特色を打ち出す試みが行われています。2014年4月にオープンし、舞台芸術家たちが滞在しながら作品をつくる城崎国際アートセンターもその一つで、才能のある若者を育てる場となっています。医師不足も心配されるのですが、公立豊岡病院の救命救急センターが中心となってドクターヘリをフル活用して但馬地域の救命率の向上につなげ、全国から注目を集めています。



竹田城跡

## コウノトリの野生復帰を環境教育に生かす

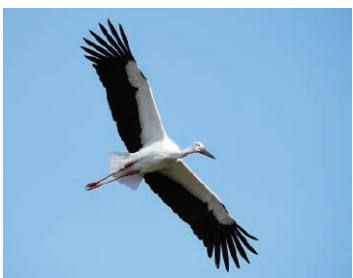
かつては日本全国各地に生息していたコウノトリ。1971年には日本でその姿を見られなくなってしまう。最後の生息地であった豊岡でコウノトリ野生復帰の取り組みが始まり、人工飼育開始から25年目、ついにコウノトリのヒナが誕生。2005年に野生復帰に向けた試験放鳥がスタートし、現在100羽を超えるコウノトリが自然界で羽を広げるまでになっています。豊岡市では、コウノトリのエサとなる生きものがあふれる「豊かな自然」と、コウノトリを人里の暮らしに受け入れる「大らかな文化」



但馬

を伴う「コウノトリも棲める」環境の再生を主眼に置いて、さらなる取り組みを続けています。その一つが人にとってもコウノトリにとっても

安全・安心な農作物を生産するための「コウノトリ育む農法」の推進です。また、生き物調査や、湿地・ジオトープの設置を通じた環境教育にも力を入れています。こうした取り組みが認知されることによって「コウノトリ育む農法」でつくられた農作物がブランド化し、コウノトリをテーマにした観光市環境経済戦略」で地域の活力が生まれつつあります。



かつて絶滅の危機に瀕したコウノトリ。試験放鳥された個体が自由に空を舞うところまで回復した

の再生、農産物を付加価値の高い食品に加工するなど収益を生み出せる農業の実践など、全国の中山間地域活性化のモデルとなる取り組みが進められています。

## 「山陰海岸ジオパーク」はじめ豊かな観光資源

豊かな自然に囲まれた但馬地域は観光資源にも恵まれています。「山陰海岸ジオパーク」は2010年10月、国内4カ所目として世界ジオパークネットワークへの加盟が認定されました。ジオパークは、地質や地形に表れる



ユネスコ世界ジオパークに認定された山陰海岸。玄武洞では六角形の玄武岩が無数に並び、不思議な景観を生んでいる

地球の歴史を学び、楽しむ地域を指し、2004年にユネスコの支援により設立された世界ジオパークネットワークが取り組んでいます。山陰海岸ジオパークは京丹後市の東端から鳥取市の西端までの東西約120kmの範囲に広がるエリアで、但馬地域では豊岡市・香美町・新温泉町が含まれます。

また、日本の近代化を牽引してきた、生野鉱山、神子畑選鉱場跡、明延鉱山などをつなぐ「鉱石の道」と、姫路港と生野鉱山をつないだ「銀の馬車道」が、2017年4月、日本遺産に認定され、産業遺産を活用した誘客、地域活性化の取り組みが行われています。

他にも、1300年の歴史を持ち、7つの外湯につながる大<sup>おお</sup>谿<sup>たに</sup>川沿いに風情のある温泉街を形成する「城崎温泉」、98度の



但馬の各漁港で水揚げされるスワイガニは松葉ガニと呼ばれ、冬を代表する味覚だ





城崎国際アートセンターは、舞台芸術を中心に、アーティストが滞在しながら創造活動を行う拠点

「豊岡カバン・アルチザン・アベニュー」を開設。情報発信の頻度が格段に増え、豊岡鞆の存在が一気に広く知られるところとなりました。

また城崎国際アートセンターは2014年、演劇やダンスなどの舞台芸術に特化した滞在型の創造活動の場としてオープンしました。毎年国内外の選ばれたアーティストが滞在し、その創作過程を地域の方々に公開したり、市内小・中学校でのワークショップを実施するなどして、子どもたちが一流のアーティストと交流する機会を積極的に設けています。

但馬地域では現在、東西、南北軸での基幹道路の整備が進んでいます。神戸・阪神・播磨とを結ぶ道路として整備中の北近畿豊岡自動車道



城崎温泉は文学作品の舞台にもなった。大鷲川沿いの風情溢れる景観を眺めながら7つの外湯をめぐる

高温かつ豊富な湯量を生かし、調理や洗濯など、古くから温泉を生活に利用してきた歴史を持つ「湯村温泉」、江戸時代には城下町として栄え、今なお当時の街並みが残されている出石周辺など自然と歴史が感じられる観光資源も多くあります。

### 子どものころから舞台芸術に触れる機会を

豊かな食資源を生かした食品産業、温泉などの観光業が盛んな但馬には、古くからの地場産業も根付いています。その一つが豊岡鞆です。大手かばんメーカーの下請けとして発展を遂げてきましたが、近年は自らメーカーとなってブランドを発信する企業も増えつつあります。豊岡市の宵田商店街振興組合では、商店街を「カバンストリート」と名づけ、各店に豊岡産の鞆を売るスペースを設けました。また、2013年には豊岡まちづくりが産地のオリジナルバッグを扱うショップ「アルチザンアトリエ」や職人育成学校「豊岡カバン・アルチザン・スクール」を併設した

路は日高神鍋高原ICまで延伸され、豊岡までのルートが現在工事中です。また、鳥取ICから宮津天橋立ICまでを結ぶ山陰近畿自動車道のうち余部―浜坂間（浜坂道路）が2017年に開通しました。また、「コウノト



ドクターヘリは但馬救命救急センターとの連携で、緊急患者の救命率向上に大きく寄与している

リ但馬空港」は、羽田空港まで伊丹空港乗り継ぎで最短で2時間半で行くことができ、2018年には新型機の導入も予定されています。今後、交通ネットワークの整備によりアクセスが良くなることで、国内外から但馬にますます多くの人を呼び込むことになりそうです。